

伊座利沖大型魚礁のROV調査

住友寿明・藤岡保史・増田多生・楠本輝一・
今治美久・萩野鉄男・上田幸男・高木俊祐*

沿岸漁場整備開発事業の志和岐地区大型魚礁設置事業により、昭和56年度に海部郡由岐町伊座利沖に設置された大型魚礁の設置後の状況を明らかにし、今後の事業推進の為に資する。併せて昭和41年度にその近傍に設置された角形魚礁群の状況について調査した。

なお、本調査は平成12年度沿岸漁業整備開発事業により実施した。

方法と材料

平成13年3月27日に海部郡由岐町伊座利沖(海部郡由岐町鹿ノ首崎から105度5,700mの地点、日本測地系位置N:33°46.890 E:134°42.210、世界測地系位置N:33°47.090

E:134°42.046)水深76mに設置された大型魚礁について、漁業調査船「とくしま(総トン数:80トン、主機関1200ps 全長32.71m)」に搭載された広和株式会社製水中テレビロボットMARINE VEGA200m仕様ソナー付き(以後ROVと称す)を用いてビデオ撮影を実施した。撮影にあ

たっては船尾より2本の用錨を実施し、魚礁上に調査船を固定した。

大型魚礁にはFP3.25型74個が設置され、角形魚礁群は1.5m角のものが875個乱積みされている。

結果と考察

ROVによりFP3.25型魚礁群及び1.5m角型魚礁群を確認した。魚礁は砂底質上に沈設され、破損、洗掘及び埋没はなく、良好な状態であった(写真1,2)。ソフトコーラル、ムチヤギおよびその他サンゴ類など豊富な付着生物が確認され、餌料生物が豊富に供給されているものと推察された。魚類としては大型のクロムツ、サクラダイの群が観察された(写真3,4)。これらの魚礁群は乱積されているため、暗い空隙が多数みられ、大型魚類の隠れ場になっていると思われるが、今回の調査ではブロック内部への潜入は行わなかったため内部の観察は出来なかった。確認できなかった。



写真1. 1.5m角形魚礁群



写真3. 魚礁上部を群泳する大型のクロムツ



写真2. FP魚礁3.25型魚礁群



写真4. 魚礁上部を群泳する大型のクロムツ.

* 徳島県水産課